

# 豊岡偉人伝 4

私たちの暮らしの発展に尽くし、近代日本の礎を築いた人、スポーツ・芸術の普及発展に心血を注いだ人など、豊岡にはさまざまな先人たちの心が息づいています。

その先人たちに学び、志を引き継ぎましょう。

《問合せ》文化振興課 ☎23-1160

## 近代かな書の巨匠 書家 仲田光成

### 仲田光成(幹一)(1899～2003)

竹野町出身 毎日書道展名誉会員  
書道団体あきつ会、目白会主宰



仲田光成は、1899年、城崎郡竹野村に4男3女の末っ子として生まれました。

幼少のころから字を書くことが好きで、小学6年生の時には、一寸四方(3×3センチメートル)に300字を書き込むという離れ業をやったのけるなど才能の片りんを見せます。

若くして書の才能を認められ、22歳で女子学習院(現女子学習院大学)に奉職します。ここで近代かな書道会の重鎮であった尾上柴舟と運命的な出会いを果たし、かな書の道を邁進することになりました。

東京で書道の先生として多くの学生や門人を教えながら、自らも書家として創作活動を行いました。なかでもかなの研究に精力を注ぎ、大字かなを芸術として完成させた独自の「仲田様式」を確立し、その才能を開花させました。

70歳で学習院大学講師を定年退職した翌年、書道団体である「あきつ会」創設に携わります。

100歳を超えても書を書き続けるなど、創作意欲は晩年になっても衰えることはありませんでしたが、2003年、満104歳でこの世を去りました。



「一人して…」102歳の時の作品



▲「はる風や 堤ながうして 家遠し」与謝蕪村 1968年の作品

### 豊岡全国かな書展

平成12年「仲田幹一 百壺歳 特別書展」を北前館で開催したことを機に、翌年から「仲田光成記念但馬竹野全国かな書展」を開催し、今年で12回目を迎えます。



第10回からは「豊岡全国かな書展」と名称を改め、会場を総合体育館に移しました。

かな書の公募展は全国でも珍しく、小・中学生の指定課題は、豊岡にちなむかな文字を含んだものにするなど、特色ある書道展としています。

昨年は全国から6千点余りの応募があり、文部科学大臣賞をはじめとする入賞、入選作品を展示しました。また、審査員が席上揮毫でかな書等を披露するなど、かな書の普及と地域の子もたちが書道に親しむきっかけづくりをし、地域文化の高揚を目指しています。

### 仲田光成記念館(竹野町竹野422)

仲田光成は、多くの書道作品を市に寄贈しており、その作品の一部を仲田光成記念館に常設展示しています。



氏が60歳を迎えたころの作品から100歳を超える時期の作品までを展示し、春と秋に2度の展示替えを行っています。

### 豊岡竹野かな書碑街道

豊岡竹野かな書碑街道づくり事業は、仲田光成の功績を記念し、「かな書文化」を地域づくりに生かすとともに、地域文化の高揚と書道の普及を図るため実施しています。



現在、竹野地域内に10カ所の書碑が設置されているほか、コウノトリの郷公園には秋篠宮同妃両殿下の歌碑があります。

【表紙写真】出石総合支所(出石町内町)隣の谷山川では、出石焼きの風鈴400個が、涼しい音色で観光客を迎えています。5年前から、出石藩きもの祭り実行委員会が、毎年この時期に取り組んでいます。この日の最高気温は37度超え。観光客らは水辺を吹き抜ける風と風鈴の音色を楽しんでいました。

●発行/豊岡市  
☎0796612311  
FAX231124  
●編集/政策調整部秘書広報課

〒668-8666  
兵庫県豊岡市中央町番4号  
URL http://www.city.toyooka.lg.jp

(総合支所)  
・竹野 ☎4711111  
・出石 ☎5231111  
・城崎 ☎54423210001  
・日高 ☎11001  
・但東 ☎54423210001